CASBEE®横浜 ▌評価結果 ▌5-047

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版｜使用評価ソフト：CASBEE横浜2022年版v.1.1

1-1 建物概要

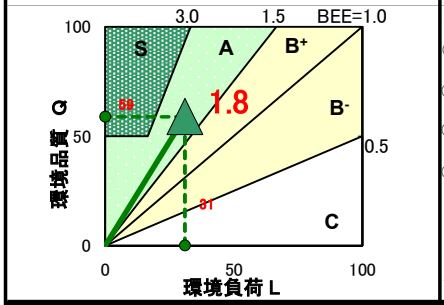
建物名称	JS新横浜ビル	階数	地上12F
建設地	横浜市港北区新横浜2丁目4番13.14	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	1,512 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,470 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年8月 竣工	評価の実施日	2025年7月17日
敷地面積	1,294 ㎡	作成者	株式会社フジタ一級建築士事務所 河野充博
建築面積	1,039 ㎡	確認日	2025年7月17日
延床面積	10,824 ㎡	確認者	株式会社フジタ一級建築士事務所 河野充博

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

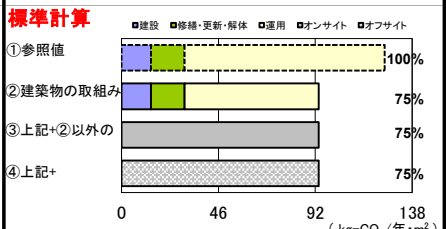
BEE =1.8

S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



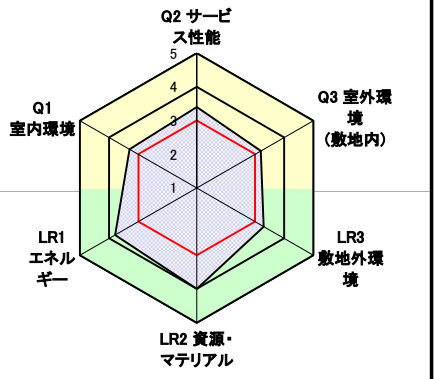
2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

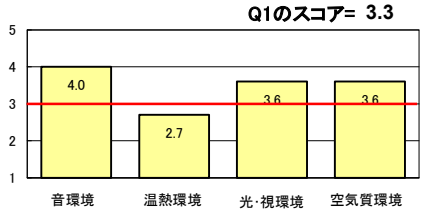
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



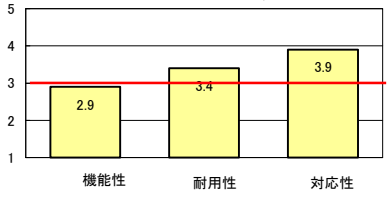
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　Q のスコア= 3.3

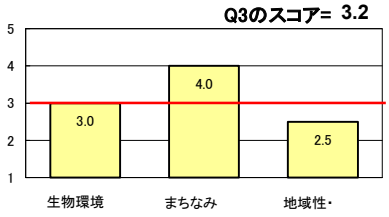
Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.3



Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.4

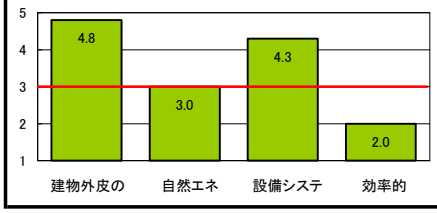


Q3 室外環境（敷地内） Q3のスコア= 3.2

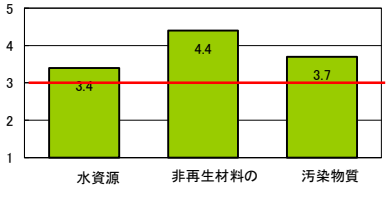


LR 環境負荷低減性　LR のスコア= 3.7

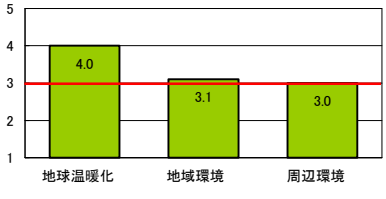
LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.8



LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 4.0



LR3 敷地外環境 LR3のスコア=3.3



3 設計上の配慮事項

総合

新横浜駅前の城南信用金庫の支店である。
基準階となる事務所は貸室を想定しており、レイアウトの自由さや、屋外の情報を得られる窓の設置など、執務スペースの環境に配慮している。
また、高効率設備機器の採用により、環境負荷削減に配慮している。

その他

0

Q1 室内環境

・遮音性能の高いサッシを採用している。

Q2 サービス性能

・耐用年数の長い内装仕上げ材を採用し、更新必要間隔に配慮している。

Q3 室外環境（敷地内）

・自生種や食餌木植物の採用により、生物環境の保全と創出に配慮している。

LR1 エネルギー

・設備システムの高効率化を行い、一次エネルギー消費量の削減に配慮している。

LR2 資源・マテリアル

・再利用可能な部材を採用し、非再生性資源の使用量削減に配慮している。

LR3 敷地外環境

・燃焼機器を使用しておらず、大気汚染物質を排出しないよう配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
■LCCO2の算定条件等については、「LCCO2算定条件シート」を参照されたい

CASBEE横浜 評価結果 5-047

CASBEE横浜2022年版v.1.1

4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

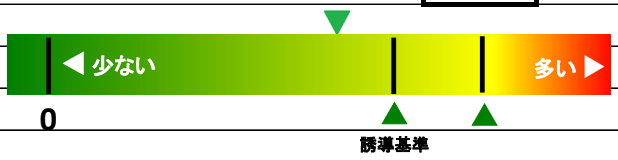
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。　　建物名称　JS新横浜ビル

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving

重点項目への取組(5点満点)　【省エネルギー性能】　2

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量　33　%削減



一次エネルギー消費量基準	適合
外皮基準	適合
受付日	2023年7月25日

■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

③高効率設備機器の採用をしている。

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community

重点項目への取組(5点満点)　【快適・働きやすさ】　3

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

⑩1作業単位で照明制御が可能、自動照明制御ができる。

⑪ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を採用している。

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience

重点項目への取組(5点満点)　【防　災】　3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

⑮建築基準法等に定められた25%増の耐震性を保有している。。

⑯耐用年数の長い内装仕上げ材を採用している。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape

重点項目への取組(5点満点)　【地域・まちづくり】　3

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

⑲建物のまちなみ調和に配慮している。

太陽光発電などの導入	環境配慮技術の導入 (太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)
太陽光利用	
エネルギーマネジメントシステム導入	
— —	

CASBEE横浜 評価結果 5-047

CASBEE横浜2022年版v.1.1
JS新横浜ビル

バージョン　CASBEE横浜2022年版v.1.1

スコアシート　実施設計段階

配慮項目	重点項目 <非住宅> <集合住宅>	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質			-		-	3.3
Q1 室内環境			0.40			3.3
1 音環境		4.0	0.15	-	-	4.0
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-	-
1.2 遮音		5.0	0.40	-	-	-
1 開口部遮音性能		5.0	1.00	-	-	-
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-
1.3 吸音		4.0	0.20	-	-	-
2 温熱環境		2.7	0.35	-	-	2.7
2.1 室温制御		3.3	0.50	-	-	-
1 室温	快適・働きやすさ ⑨温熱環境	3.0	0.38	-	-	-
2 外皮性能	快適・働きやすさ 健康・安心 ⑨温熱環境 ⑤外皮性能	3.0	0.25	-	-	-
3 ゾーン別制御性	快適・働きやすさ ⑨温熱環境	4.0	0.38	-	-	-
2.2 湿度制御	快適・働きやすさ ⑨温熱環境	1.0	0.20	-	-	-
2.3 空調方式	快適・働きやすさ ⑨温熱環境	3.0	0.30	-	-	-
3 光・視環境		3.6	0.25	-	-	3.6
3.1 昼光利用		3.0	0.30	-	-	-
1 昼光率	快適・働きやすさ ⑩光環境	3.0	0.60	-	-	-
2 方位別開口	快適・働きやすさ ⑩光環境	-	-	-	-	-
3 昼光利用設備	快適・働きやすさ ⑩光環境	3.0	0.40	-	-	-
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-	-
1 昼光制御	快適・働きやすさ ⑩光環境	3.0	1.00	-	-	-
3.3 照度	快適・働きやすさ ⑩光環境	4.0	0.15	-	-	-
3.4 照明制御	快適・働きやすさ ⑩光環境	5.0	0.25	-	-	-
4 空気質環境		3.6	0.25	-	-	3.6
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-	-
1 化学汚染物質	快適・働きやすさ ⑪空気質環境	4.0	1.00	-	-	-
4.2 換気		2.6	0.30	-	-	-
1 換気量	快適・働きやすさ ⑪空気質環境	4.0	0.33	-	-	-
2 自然換気性能	快適・働きやすさ ⑪空気質環境	3.0	0.33	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ ⑪空気質環境	1.0	0.33	-	-	-
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-	-
1 CO_2の監視	快適・働きやすさ ⑪空気質環境	3.0	0.50	-	-	-
2 喫煙の制御	快適・働きやすさ ⑪空気質環境	5.0	0.50	-	-	-
Q2 サービス性能		–	0.30	-	-	3.4
1 機能性		2.9	0.40	-	-	2.9
1.1 機能性・使いやすさ		2.3	0.40	-	-	-
1 広さ・収納性	快適・働きやすさ ⑫機能性	1.0	0.33	-	-	-
2 高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ ⑫機能性	2.0	0.33	-	-	-
3 バリアフリー計画	快適・働きやすさ ⑫機能性	4.0	0.33	-	-	-
1.2 心理性・快適性		3.3	0.30	-	-	-
1 広さ感・景観	快適・働きやすさ ⑫機能性	4.0	0.33	-	-	-
2 リフレッシュスペース	快適・働きやすさ ⑫機能性	2.0	0.33	-	-	-
3 内装計画	快適・働きやすさ ⑫機能性	4.0	0.33	-	-	-
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ ⑫機能性	4.0	0.50	-	-	-
2 維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ ⑫機能性	3.0	0.50	-	-	-
2 耐用性・信頼性		3.4	0.30	-	-	3.4
2.1 耐震・免震		3.8	0.50	-	-	-
1 耐震性	防 災 ⑮耐震・免震	4.0	0.80	-	-	-
2 免震・制振性能	防 災 ⑮耐震・免震	3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数	防 災 ⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	防 災 ⑯部品・部材の耐用年数向上	2.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防 災 ⑯部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	防 災 ⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	防 災 ⑯部品・部材の耐用年数向上	4.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔	防 災 ⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性		3.0	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備	防 災 ⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備	防 災 ⑰信頼性	2.0	0.20	-	-	-
3 電気設備	防 災 ⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法	防 災 ⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備	防 災 ⑰信頼性	4.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性		3.9	0.30	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり		4.6	0.30	-	-	-
1 階高のゆとり		5.0	0.60	-	-	-
2 空間の形状・自由さ		4.0	0.40	-	-	-
3.2 荷重のゆとり		4.0	0.30	-	-	-
3.3 設備の更新性		3.4	0.40	-	-	-
1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	-
2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	-
3 電気配線の更新性		5.0	0.10	-	-	-
4 通信配線の更新性		5.0	0.10	-	-	-
5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	-

CASBEE横浜 評価結果 5-047

CASBEE横浜2022年版v.1.1
JS新横浜ビル

バージョン　CASBEE横浜2022年版v.1.1

スコアシート　実施設計段階

配慮項目	重点項目 ＜非住宅＞ ＜集合住宅＞		建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	-
Q3 室外環境（敷地内）			–	**0.30**	-	-	**3.2**
1 生物環境の保全と創出	地域・まちづくり	⑱生物環境の保全と創出	**3.0**	0.30	-	-	**3.0**
2 まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり	⑲まちなみ・景観への配慮	**4.0**	0.40	-	-	**4.0**
3 地域性・アメニティへの配慮			**2.5**	0.30	-	-	**2.5**
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり	⑳地域性への配慮	**3.0**	0.50	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ	⑭敷地内温熱環境の向上	**2.0**	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			–	-	-	-	**3.7**
LR1 エネルギー			–	**0.40**	-	-	**3.8**
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネルギー性能	①建物の熱負荷抑制	**4.8**	0.20	-	-	**4.8**
2 自然エネルギー利用	省エネルギー性能	②自然エネルギー利用	3.0	0.10	-	-	**3.0**
3 設備システムの高効率化	省エネルギー性能	③設備システムの高効率化	**4.3**	0.50	-	-	**4.3**
4 効率的運用			**2.0**	0.20	-	-	**2.0**
集合住宅以外の評価			**2.0**	1.00	-	-	-
4.1 モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-	-
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	1.0	0.50	-	-	-
集合住宅の評価			-	-	-	-	-
4.1 モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	-	-	-	-
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			–	**0.30**	-	-	**4.0**
1 水資源保護			**3.4**	0.20	-	-	**3.4**
1.1 節水			**4.0**	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			**3.0**	0.60	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			**4.4**	0.60	-	-	**4.4**
2.1 材料使用量の削減			5.0	0.10	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			5.0	0.20	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			5.0	0.20	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.20	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			**3.7**	0.20	-	-	**3.7**
3.1 有害物質を含まない材料の使用			4.0	0.30	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			**3.6**	0.70	-	-	-
1 消火剤			4.0	0.33	-	-	-
2 発泡剤（断熱材等）			4.0	0.33	-	-	-
3 冷媒			3.0	0.33	-	-	-
LR3 敷地外環境			–	**0.30**	-	-	**3.3**
1 地球温暖化への配慮			**4.0**	0.33	-	-	**4.0**
2 地域環境への配慮			**3.1**	0.33	-	-	**3.1**
2.1 大気汚染防止			**5.0**	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			**2.0**	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			**3.5**	0.25	-	-	-
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-
3 交通負荷抑制			5.0	0.25	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮			**3.0**	0.33	-	-	**3.0**
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			**3.0**	0.40	-	-	-
1 騒音			3.0	1.00	-	-	-
2 振動			-	-	-	-	-
3 悪臭			-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			**3.0**	0.40	-	-	-
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	-
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	-
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制			**3.0**	0.20	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	-
2 昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策			3.0	0.30	-	-	-

上記以外の重点項目				-	-	-	-
＜事務所用途＞				-	-	-	-
知的生産性向上への取組	快適・働きやすさ	⑬知的生産性向上への取組	3.0	-	-	-	-
＜住宅用途＞				-	-	-	-
健康と安心				-	-	-	-
1 化学汚染物質の対策	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-	-
2 適切な換気計画	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-	-
3 結露・カビ対策	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-	-
4 犯罪に備える（共用部の防犯対策）	健康・安心	⑦防犯対策	-	-	-	-	-